

学年	教科	単元名	児童	場所	指導者
2年	国語	「平家物語」	2年1組 40名	2年1組	成田麻友子

1 単元について

本単元で育てたい資質・能力

【知識・技能】

○現代語訳や語注などを利用して古典作品を読み、読み取った内容や作品の特徴を生かして音読することで、古典の世界に親しむこと。

【思考力・判断力・表現力等】

○適切な情報を得て登場人物の状況や言動の意味などについて考え、内容を解釈することや、理解したことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。

【学びに向かう力、人間性等】

○古典作品に描かれたものの見方や考え方を理解するとともに、古典の言葉の特徴を大切に音読しようとする態度を養う。

単元・題材について

C読むこと

イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

ア 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。

イ 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。

「平家物語」は鎌倉時代前期の軍記物語である。冒頭文は作品を貫く「無常観」という仏教理念を示している。漢文調のリズム感ある文章は暗唱教材として広く用いられている。

中心教材である「扇の的」は、弓の名手である那須与一が屋島の合戦において、平家方の掲げる扇を射るという有名な場面である。全体は漢文調で、対比的表現や擬音語などを効果的に使い、臨場感あふれる文体となっている。前半は那須与一の決意とも重なり、重々しく緊迫感ある力強い表現が並ぶが、後半は射貫いた技の見事さを称えるように一転して明るく鮮やかな映像が切り取られる。最後は「弓流し」に続く部分で、戦いの非情さが際立つ場面である。

児童の実態

本学級の生徒は、理解力・表現力・発言力など多くの面で二極化が際立ち、丁寧な指導を必要とする。生徒の課題は次の4つである。①始めから諦め、学びに向かえない生徒がいる。②すぐできてしまう能力の高い生徒が、仲間との高め合いにつなげられない。③語彙に関する知識が不十分で、内容理解を妨げている。④異なる時代や自分たちの生活圏でない地域に関する知識が少なく、イメージの幅を狭めている。

単元の目標

作品理解に必要な情報を読み解き、作品の特徴を生かして音読するとともに、昔の人のものの見方や考え方に触れ、古典に親しむことができる。

単元の指導について

教材の特徴を踏まえながら、4つの課題を解決するため以下のような手立てをとる。まず①②の課題を解決するために、「チームでの音読」と「段階的な音読練習」を組み合わせ、学び合いや高め合いを促進したい。4月当初より授業に音読を取り入れており、生徒の音読に対する抵抗感は少ない。また生徒は古典の仮名遣いの変化をクイズ感覚で読み解き、総じて古典を好む傾向がある。本教材では古文音読への意欲をそがないよう、生徒の読みにくさを予測して音読課題を設定するとともに、チームで取り組ませることでゲーム的な要素を追加する。失敗を繰り返すことで適切な読み方に近付き、仲間の音読を聞くことでよりよい読み方に気付くようにする。最終的な課題としては、内容理解が音読の仕方に影響する箇所を指定し、チームでの読み方をどのように工夫するか、また実際にどのように音読するかを評価したい。チームでの「音読」を言語活動の柱として据えながら、音読のために必要な内容理解を適切に組み込むことで、しっかりとした「読みの力」を育む。次に③の課題については、適宜語句の意味を調べさせたり、語句のテストを行ったりすることで解決させたい。また④の課題については、国語便覧やワークを用い、作品理解に必要な知識・情報を適切に補足することで解決を図る。

単元の評価規準

【国語への 関心・意欲・態度】	【読む能力】	【言語についての 知識・理解・技能】
①作品理解につながる時代背景等の情報や知識を得たり、活用したりしている。 ②声の出し方や読み方など音読の工夫をしようとしている。	①登場人物の言動の意味や場面の状況を、前後の文脈や展開を捉えて読み取っている。 ②対比的表現や擬音語など、描写の効果を捉えている。	①語句の意味を調べたり、新しい語彙を習得したりしている。 ②描写の特徴や内容理解を生かして音読している。

子どもの深い学びの姿

時代背景等の情報を適切に得て、語句の意味や表現の効果を捉えるとともに内容を理解し、理解したことをチームでの音読で表現しようとしている。

次	○おもな学習活動 ・ 具体的内容 まとめ	指導上の留意点 【教師の評価規準】(評価方法) ◇到達が不十分な児童への指導の手立て
一次 つかむ・見通す	<p>① ○単元の課題を確認する。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「音読」の集大成として、「平家物語」をチーム音読で表現しよう ・正しくリズムよく読む ・自分の声を生かして読む ・内容を理解して読む</p> </div> <p>○「平家物語」冒頭文を音読する。 ・「平家物語」の基礎知識を確認する。 ・小学校での音読を想起しながら、冒頭文を音読する。 ・冒頭文の内容をワークシートで確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>作品の背景にある「無常観」を理解して冒頭文を音読する</p> </div>	<p>【関心・意欲・態度①②】 社会科なども含め、既習の知識を活用している。 良く声を出し、音読している。 (発表・音読) ◇言葉を区切って音読練習させる。 ◇個人・ペアなど練習の方法を変えながら繰り返し音読させる。</p>
	<p>② ○冒頭文を暗唱する。 ・古文のリズムを体感し、音読で表現する。 ・「無常観」を意識して音読する。</p> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>思考を活性化させるアクティブ化ポイント① どのように読むと「無常観」という言葉がもつ雰囲気表現できるか考えさせる。</p> </div> <p>○「平家物語」のあらすじを捉える。 ・ワークシートを使い、「平家物語」全体の流れと「扇の的」導入部分までの内容を調べる。</p>	<p>【知識・理解・技能②】 冒頭文の内容を理解して暗唱している。(暗唱) 【関心・意欲・態度②】 正しく暗唱している。(暗唱) ◇仲間同士で聞き合いをさせる。 ◇上手な生徒の音読を評価する。</p> <p>【関心・意欲・態度①】 国語便覧等を活用している。 (ワークシート)</p>
二次 追究する	<p>③ ○「扇の的」本文までのあらすじと、歴史的仮名遣いの読み方を確認する。 ・前時のワークシートの内容を確認しながら、「扇の的」導入部分のイメージを膨らませる。</p> <p>○「扇の的」を音読する①(準備) ・「扇の的」本文の範読を聞いて、音読の全体像や大まかな内容・場面をつかむ。 ・仮名遣いの基本を復習する。 →練習問題→ルールをノートにまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「扇の的」の内容を理解し、場面の様子が伝わるように、チームで音読する</p> </div>	<p>【知識・理解・技能①】 新しい語句や古典特有の語彙を習得している。 (ワークシート・練習問題) ◇1年生の既習事項を指摘する。 ◇わかる生徒に聞くよう促す。</p>

二次 追究する	④(本時) ○「扇的」を音読する②(練習) ・冒頭文暗唱 ・音読に必要な基礎事項(漢字の読み方)を確認する。→「確認テスト」 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">音読練習1: 正しく, リズムよく音読する</div> ・「扇的」前半を使って音読練習する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">音読練習2: 内容を理解してペア音読する</div> ・現代語訳を読み, 内容を理解する。 →「一問一答テスト」 ・指定箇所をペア読みする。	【知識・理解・技能①】 新しい語句や古典特有の語彙を習得している。(確認テスト) ◇生徒の読みにくさを予想した音読課題の提示 【読む①】 登場人物の言動の意味や場面の状況を読み取っている。 (一問一答テスト) ◇音読の仕方のパターンを示す
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 思考を活性化させるアクティブ化ポイント② ペアで指定箇所を読むときに, 内容を踏まえて, どのように音読するか考えさせる。 </div>	【知識・理解・技能②】 描写の特徴や内容理解を生かして音読している。
⑤ ○「扇的」を音読する③(本番) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">音読発表: 与一が扇を射る場面の様子が伝わるよう, 読み方を工夫して, チームで音読する</div> ・現代語訳を読み内容を理解する。 →「一問一答テスト」 ・前時のパーツ音読の部分を使って, 「係り結び」の復習をする。→強調・リズム ・「扇的」中間を使ってチーム音読する。	【読む②】 対比的表現や擬音語など, 描写の効果を捉えている。 (テスト・音読) 【知識・理解・技能②】 描写の特徴や内容理解を生かして音読している。(音読)	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 思考を活性化させるアクティブ化ポイント③ チームで読むときに, 内容と描写の効果を踏まえながら, 互いの声を生かしてどのように音読するか考えさせる。 </div>		
三次 まとめる・広げる	⑥ ○「扇的」から「弓流し」を読む。 ・今までの学習事項を生かして音読する。 ・内容を確認し, 「平家物語」に描かれた人物像やものの考え方を捉える。	【知識・理解・技能②】 描写の特徴や内容理解を生かして音読している。(音読)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> チームでの音読には, 適切に描写や内容を捉え, どのように表現すると場面の様子が伝わるのか考えた上で, どうすれば互いの声を生かせるか考えることが大切。 </div>	

3 本時の学習

(1) 目標

「扇的」の描写や内容を踏まえて、ペアで読み方を工夫し、音読することができる。

(2) 展開【6時間扱い 4/6時間目】

*一単位時間レベルB-②【対話重視】

	生徒の活動	思考	<input type="checkbox"/> 教師の働きかけ 【教師の評価】(評価方法) *思考を活性化させるアクティブ化ポイント
導入 1分	1 今日の学習の見通しをもつ	全	<input type="checkbox"/> 黒板に今日の学習内容を提示 1 冒頭文暗唱 2 確認テスト 3 一問一答 4 課題学習 (ペア音読)
	「扇的」p135までを使い、チーム音読の練習として、ペア音読をしよう		
展開 47分	2 冒頭文暗唱 3 音読に必要な基礎事項(漢字の読み方)を確認する→「確認テスト」 4 P135までを使って音読練習する 練習1: 正しく, リズムよく音読する ・全員読み→列読み(句読点読み) ・チーム読み(指定箇所をパーツ読み) 5 現代語訳を読み, 内容を理解する→「一問一答」 練習2: 内容を理解してペア音読する 6 指定箇所をペア読みする ・「沖には平家…これを見る」を練習し発表 ・「いづれもいづれも・・・ぞなき」をつけてどう読むか相談し練習し発表	全 個全 全個 グ 個全 ペア	<input type="checkbox"/> 声出しと集中力をあげるためなので, 元気よく, テンポ良くやらせる。 <input type="checkbox"/> 正しく読むための基礎学習なので, 全員できているか確認する。 【知識・理解・技能①】 新しい語句や古典特有の語彙を習得している。(確認テスト) <input type="checkbox"/> 生徒の読みにくさを予想して課題を設定する 「あの 扇の 真ん中 射させて たばせ たまへ」 「この矢 はづさせ たまふな」 「扇も 射よげに ぞ なつたり ける」 【読む①】 登場人物の言動の意味や場面の状況を読み取っている(一問一答) <input type="checkbox"/> 音読の仕方のパターンを示す 【知識・理解・技能②】 描写の特徴や内容理解を生かして音読している *ペアで指定箇所を読むときに, 内容を踏まえて, どのように音読するか考えさせる。
終末 2分	7 仲間の発表から学びを振り返る		<input type="checkbox"/> どのような内容理解に基づき, どのような工夫をしたか確かめさせる。 <input type="checkbox"/> 音読の得意・不得意や声の質など, 互いを生かす読み方があることに気付かせる
	ペアでよりよい音読をするには, 内容の理解に基づき, 互いの得意・不得意や声の質などを踏まえて音読することが大切である。		

(3) 本時の評価

◇評価規準の具体 (評価方法～発表, ワークシート, ノート)

【知識・理解・技能】

- ①新しい語句や古典特有の語彙を習得している。(ワークシート：確認テスト)
- ②描写の特徴や内容理解を生かして音読している。(音読発表)

【読む】①登場人物の言動の意味や場面の状況を読み取っている。(ワークシート：一問一答)